

# 菊陽病院だより

—22号

Kikuyo hospital newsletter



中庭のイルミネーション

# 01 新年を迎えて

院長 和田冬樹

みなさん 明けましておめでとうございます。樺島先生が逝去されて一年が過ぎましたが、大過なく医療活動を続けられたのは、故樺島先生の綿密な引き継ぎと皆様方の暖かい御支援の賜とっております。年頭にあたり皆さんに感謝申し上げますと思います。

故樺島先生の業績集／追悼文集の編纂作業に昨年秋から取り組んでおります。先生は精神科医療に留まらず公害病や障害者運動など幅広い分野で活躍されたので、法人／県連のみならず諸団体の方々に執筆をお願いして、業績／活動やお人柄など樺島先生の全体像が浮かび上がるようにし、今年度中には完成させたいと思っております。

さて巷では2025年問題に向けて医療介護大変革が進行しています。7対1病床削減や病床機能報告制度など一般科医療の話題で持ちきりですが、数年後には精神科でも激震が走ると予想しております。敷地内居住系施設、病床削減、経営構造の転換、地域でのポジショニングや地域包括ケアの中での一般科と精神科のコラボレーションなど避けて通れない問題が山積しております。敷地内の社会復帰施設や病床転換型居住系施設に関しては、日弁連や全国精神保健福祉会等から間髪入れず反対声明が出されました。敷地内社会復帰は障害者権利条約の理念に照らして真の社会復帰とは認めがたいという見解であります。

当院は、熊本保養院の時代から、社会復帰を積極的に進めて参りました。平成20年と平成24年のデータの比較になりますが、20年以上の長期入院者の割合は4%から0.8%、3ヶ月未満の再入院率も23%から9.4%と、ここ数年間でも多くの長期入院患者さんが退院し、地域で患者さんそれぞれが希望される生活を営んでいます。最近、社会復帰施設も増え、ご本人さんやご家族の希望に添った丁寧な地域移行支援が出来るようになったと思います。統合失調症入院患者に関しては、今後10年間で17万2千人から12万4千人へ激減するという推計があります。平成26年現在統合失調症で入院されている患者の約60%が60歳以上ですが、薬の影響や様々な合併身体疾患併の影響もあって、一般人口に比べて10～25年短命と言われております。精神科病院内の高齢化が年々進行している中で、地域移行される患者さん方にはこれまで以上に医療／介護のきめ細かな多面的サポートが必要となります。当事者やご家族中には病院から離れることに対して不安を表明される方々がおられます。理由は、病院敷地内ならきめ細かい医療／介護のサポートが得やすいこと、長年生活してきた精神科病院には「なじみの関係」が築かれていること等が挙げられます。そう考えると敷地内居住施設も一つの選択肢としてあっても良いのではないかと思います。

今後さらに多くの患者さんが退院されると思いますが、当事者やご家族のニーズに合致する社会復帰／地域移行支援なのか否か、精神科病院も選ばれる時代に突入していくと予想されます。当院も、病床削減も含めどのような方針で臨むのか、ここ数年間で大きな変革を迫られるものと思っております。故平田宗男先生(創始者)、故樺島啓吉先生から受け継いだものを大切にしつつ、民医連や病院の理念に照らしながら、民主的集团的討議に基づく舵取りが肝要と常に自分に言い聞かせております。みなさん今年も菊陽病院をよろしくお願い致します。



## 02 HPH活動とは

東2階病棟 宮本詩子

熊本民医連は日常医療・介護活動と社会保障活動と連動させ、共同組織とともに進めていくことが重要であり、ヘルスプロモーションを推進するチームの立ち上げを進め、HPHへの参加登録を目指しています。HPHとは、患者の健康増進のために質の高い総合的な医療と介護を提供することをはじめ、地域そのものを健康にすること、そして医療機関で働く職員自らも健康にする活動です。

菊陽病院でも昨年HPH推進委員会を立ち上げました。日々の医療活動はもちろんですが、①禁煙問題②ギャンブル相談会③中断対策④職員のメンタルヘルスなど病院全体で行っている活動もHPHの一つです。院内だけでなく地域活動としても定期的な班会への参加、青空健康相談、認知症キャラバンメイト活動など取り組んでいます。また、HPHは、求める人だけに向けた活動ではなくホームレスや社会的弱者など、求められない人たちへの継続した取り組みも重要です。毎年年末には生健会の方と協力しホームレス支援に出かけたり、中でも水俣病問題への取り組みは、いまや熊本だけでなく全国的な活動となりました。自分たちの医療活動に自信を持って、これからも健康なまちづくりを目指していきたいと思えます。

## 03 初めての「青空健康相談会」に 取り組んで

共同組織委員会 中田里美

菊陽・大津健康友の会では、11月4日に初めて、「青空健康相談会」を取り組みました。  
場所は火曜市で買い物客が多い、サンリー菊陽店前で行いました。

橋本先生をはじめ、看護師2名(金子さん、野田さん)、栄養士1名(中田)、事務局からは山本事務長、西本さん、友の会からは小林会長、石原副会長が参加されました。

肌寒いなかの取り組みで、最初は人が集まらず、やきもきしたのですが、一人立ち寄ると、また一人と集まって来られ、約20名の方に、血圧や、体脂肪の測定を行ったり、「尿酸値が高いのだけど…」など健康相談を行いました。

初めての取り組みで不安もありましたが、北部健康友の会の協力もあり実施することができました。

友の会では今後、春と秋に取り組む予定です。



## 04 高齢者虐待について考える 学習会の取り組み

教育学習委員会 横林啓人

近年、高齢化に伴い認知症患者の急増、介護抵抗など介護者の負担が大きく、高齢者への虐待が問題視されています。当院でも高齢の精神疾患患者が増えてきました。また、身体合併症を併発した患者も多く、身体的なケアが求められています。患者のペースに合わせてその人らしい生活を送れることを追求していますが、時間に追われ看護者ペースになっているのが現状です。

看護倫理とは患者にとって良い看護を提供したいという思いで、何が患者にとって一番良いのかを考え、看護を提供することです。自分たちの看護を振り返るためにこれまでもたくさんの学習会をしました。昨年度は高齢者虐待問題に着目し、熊本県介護福祉士会会長である石本氏を講師に迎え学習会を行いました。介護の現場において虐待問題は深刻であり、個人のスキルアップはもちろんですが、互いに注意しあえる職場風土づくりが大切であると学びました。また学習会には事務など看護、介護と直接的な関わりをもたない他職種の職員も多数参加し、医療機関に勤めるものとしての心構えを再確認できたといった声が多く寄せられました。

今後もこのような学習会を定期的に行うことで、人権や倫理について考え、これからも患者中心の医療を展開していけるように頑張っていきたいと思います。



## 05 危険ドラッグの蔓延

医局 尾上毅

「薬物乱用防止対策研修会の報告」をこの『菊陽病院だより』に書いたのが1年前でした。「麻薬、覚せい剤等には指定されていないが、それらと類似の有害性が疑われる物質」で、規制と規制逃れが「イタチゴッコ状態」となっていたこと、「急性中毒の問題」「依存症の問題」などを挙げて、「…さらなる拡大につながらないか危惧しています。精神科救急でも依存症の分野でも、熊本で中心的な役割を担っている菊陽病院としては、今後の動向に目を離すわけにはいかないのではないのでしょうか」と文章を結びましたが、好ましからざる未来は的中してしまいました。



あれから1年、交通事故、急性中毒による死亡、錯乱状態によると思われる傷害や殺人など、悲惨なニュースが繰り返し報道されてきました。危険性をより明確にするために「危険ドラッグ」と名称を変更し、疑わしい薬は成分分析結果がでるまで待たずに販売停止命令をだせる、それも摘発した店舗だけでなく、インターネット販売を含めて一律に販売を停止させることができるなどの薬事法の改正が行われてきたにもかかわらず、危険ドラッグの使用は一向に減りません。中には覚せい剤よりたちの悪いものもあるにもかかわらず、見た目が煙草みたいなものもあること・注射ではないこと・「ハーブ」という爽やかな語感・比較的安価で買えてしまうこと・ネットでも入手できることなどのために敷居は依然として低いまです。インターネット販売では、より危険性の高いもの・依存性の強いものをサンプルとして送ってくることもあり、一層、症状把握や治療反応性の予測が困難となっています。

菊陽病院は、困っている方にとって最後の砦だと思っていますが、それだけでなく、予防・啓発にも力をいれなければならないのでは、と感じています。

## 06 特定秘密保護法は廃止を

事務次長 久保田俊平

昨年12月に特定秘密保護法が施行されました。特定秘密保護法には精神医療・福祉に携わる立場からは大いに懸念される内容がいくつか含まれており、その中の一つに「適性評価制度」があります。行政の長が、公務員等の特定秘密を扱う方達に関して「薬物の濫用及び影響に関する事」、「精神疾患に関する事項」、「飲酒についての節度に関する事項」など7項目について調査し、医療機関に照会、回答を求めることができるというものです。

この制度は、医師患者間の守秘義務を崩壊させるという点や、精神疾患患者等は「本人にその意図がなくても特定秘密を漏洩するかもしれない」という差別意識に基づいたものであること、また適性評価を行う際には、本人の同意をとることとされているが、仮に不同意の態度を取った場合に、そのことを理由に仕事につけなくなるなど大きな問題を抱えており、日本精神神経学会から反対の見解が出されています。特定個人の疾病(障害)属性を持つ者を、予断をもって排除しようとする手法は、障害者権利条約に違反しているのみならず国民の差別意識を強めることになると考えられます。

特定秘密保護法にはこの適性評価制度の他にも、「何が秘密であるかが秘密」、「マスコミの報道や取材の阻害」など大きな問題も抱えています。このような法律は廃止して当然ではないでしょうか。国民世論で廃止へと追い込んでいきましょう。



## 07 PACS導入にむけて

情報システム委員会 池田憲治

みなさんPACS(パックス)という言葉をご存じですか? Picture Archiving and Communication Systemの略称なのですが、これだけでは何の事かさっぱり分かりませんよね?

レントゲンやCTの画像は、今まで重く嵩張るフィルムという形で保存するしか方法がありませんでした。

しかしコンピューターの技術の進歩でこれらの画像をデータとして保存し、パソコンのモニターで閲覧する事が可能になってきています。



このシステムを導入すると、非常に素早い読影が可能になったり、たくさん撮影データの中から素早く必要な画像を探し出す事が出来たり、遠隔地の専門医に即座に判断を仰いだりする事が可能になります。

また、今まで場所を取っていたフィルムを保存しておく必要もなくなります。菊陽病院では新病院建設当時から検討を重ねて来ましたが、いよいよ来春導入する事が決定しました。

より迅速で正確な診断で当院の医療の質的向上に貢献してくれるものと期待されます。

## 08 文化祭

第33回文化祭実行委員会 森このみ

2014年10月25日に第33回菊陽病院文化祭を開催しました。今年は、晴天に恵まれ、青空の下で行うことができました。地域からも245名の方にご参加いただき、無事盛況に終えることができました。ご協力して頂いた皆様方にお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

患者さまが主体となって「文化祭で何を行いたいのか」を10回の実行委員会の中でじっくりと考え運営してきました。演芸会やカラオケ大会は患者さまと職員が一丸となって取り組み、笑顔で触れ合える場となりました。バザー会場は開始早々から多くの方が集まり、賑わいを見せていました。またお茶席は、100名以上の方にご参加いただき、お作法を体験し、居心地良い和の雰囲気にもなりました。患者さまや職員、そして地域の方々からも多くの作品を展示して頂き、プログラムにはトロンボーン演奏、フラダンス、玉すだれ、大正琴や武蔵中学校吹奏楽部様の記念コンサート等を取り入れ、日頃味わえないような光景や音色を体感することができ、多くの方々喜んでいました。文化祭を通して、地域とのつながりを感じる機会となり、とても有意義であったと思います。

今後も菊陽病院文化祭をより充実させていきたいと思っています。来年も青空の下、のびのびと文化祭が開催できることを願っております。



## 09 草取りボランティアはふれあいの場

家族会長 田島敬一

11月22日、青空の下、菊陽病院家族会では、病院のスタッフの方々とも共同で、毎年1回恒例の敷地内草取りボランティアを実施しました。

全国の精神科医療施設の中でも、家族会のメンバーと病院のスタッフとが、肩を並べて草取りや窓拭きのボランティアをするというのは、おそらく数少ないのではないかと思います。

家族のひとりとしての思いは、いつも病院のお世話になっているばかりで、また社会に対しても負担をかけているために、重苦しく暗い気分のうちひしがれています。また普段病院スタッフの皆さんに対しても、家族にとってはなぜかおっかない感じがして距離感があります。これは私だけでなく、ほかの皆さんもきっと大なり小なりそうではないかと思うのです。

この気分をなんとか取っ払うために、草取りなどをやって万分の一の感謝の気持ちを表してみたら精神の安定のためによいのではないだろうかということで、役員会で話し合い、一年に一度の草取りの日を設けるようになって、すでに数年になります。※雨天の場合は窓拭き

肩を並べて「菊陽病院ありがとう、スタッフのみなさんありがとう」と、心の中で念じながら草取りや窓拭きをしていると、それほどたいした労力でないにもかかわらず、実にさわやかな晴れやかな気持ちになるという不思議をいつも感じます。

終了後、家族会室に集まっていると、スタッフの方がおいしい芋などを持ってきていただきました。楽しく談笑すると心が通じ合うようなさわやかな気持ちになります。

みなさんも、年に一度の草取りボランティアに参加して、心をいくらかでも軽くされてはいかがでしょうか。



# 10 クリスマス会

菊陽ぼっぼ保育園 川上隆子

クリスマスは子ども達にとっては楽しみな日。12/24  
ぼっぼでもみんなで歌や合奏、劇ごっこ、フラフープ大会など  
して楽しくお祝いをしていました。すると…

今年もサンタさんが沢山プレゼントをもって来てくれました！  
毎年楽しみにしている3、4、5歳児。「好きな食べ物はカレーだよ」と  
去年の話をしっかり覚えている子や、じーっと見つめて「ヒゲどうな  
ってるの？」とサンタさんの正体が気になる子も…。1、2歳児はちよ  
びり緊張気味でしたが、プレゼントはしっかりもらっていましたよ！フレ  
ンドリーなサンタさんに抱っこしてもらったり、大喜びの子ども達で  
した♪

サンタさん、ありがとうございました！

サンタさんと一緒に、世界中の子ども達の幸せを願います。



# 11 永い間、お世話になりました。

山本隆憲

私は25歳のときに芳和会に入職し、最初の勤務先が菊陽病院でした。その後、法人本部、くわみず病院と勤務し、20年後に再び古巣の菊陽病院に戻って、一大事業であった病院リニューアルを職員の皆様と苦勞をともにしながらとりくんできました。ハード面での整備は一定程度すんできましたが、ますます厳しくなっていく医療情勢のもとで、医療と経営を軌道に乗せていくことは、生半可なことではないと痛感しています。

永年にわたって菊陽病院の医療をつくりあげてこられた榊島啓吉先生がお亡くなりになったこともたいへんなショックで、大きなダメージでした。

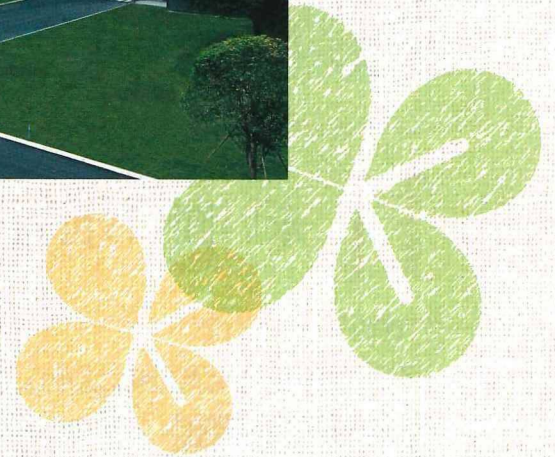
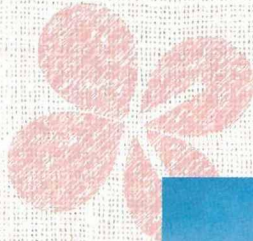
しかし、菊陽病院にはどんな困難に直面してもそれを乗り越えていく底力があると確信しています。和田院長のもと、全職員の知恵と力で菊陽病院の未来を切り拓いていってほしいと思います。

私は1月から社会福祉法人「くまもと福祉会」の特別養護老人ホーム「たくまの里」に事務長として赴任することになりました。介護・福祉の分野ははじめての経験で不安はありますが、チャレンジしていきたいと思います。永い間本当にお世話になりました。



## 編集後記

菊陽病院に着任してから、喜びや驚きの出来事の連続であつという間に8か月が経ちました。今後も菊陽病院のエッセンスをこのたよりで皆様にお届けさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。(K)



KIKUYO HOSPITAL

## 菊陽病院

〒869-1102 熊本県菊池郡菊陽町大字原水5587  
TEL:096-232-3171 FAX:096-232-0741



熊本市中心部より『車』で ……約30分  
熊本インターより『車』で ……約10分  
三里木駅より『徒歩』で ……約15分  
JR豊肥本線・三里木駅を目印にお越し下さい。

発行責任者 菊陽病院 事務次長 久保田俊平